



コンテクト

2006.11

For With In

今は運動会シーズンで、日曜日になると運動場からにぎやかな声が聞こえます。小学校や中学校の運動会で自分の子供を応援することはもちろん楽しいのですが、地域や地区の運動会で一緒に走ったり飛んだりすることは楽しいものです。

さらに地区の委員に選ばれて、企画や当日の運営をする役になると、たいへんではありますが、その後の充実感は、単に参加するよりも大きいものです。

このような役についている人は、参加者のため(For)にやっているというよりも、参加者と一緒に(With)に、そして中に入って(In)参加されます。その方が、参加者も共に楽しみ満足度が高いのです。

ボランティア活動も同じことが言えます。さんのために(For)と言われると引いてしまうところがありますが、一緒に(With)、そして中に入って(In)行くと、ボランティアを受ける側も良い気持ちで受けることができます。

最近はやりのmixiも、まずは企業が利用者のために(For)システムを構築しましたが、その後は、利用

者と一緒に(With)、そして中に入って(In)運営をし、ついには上場を果たしました。

このように、ForからWith、そしてInに向かうことが、今後のあらゆる活動において重視しなければならない時代に入ってきたように感じています。

【降旗 達生】

社員さんの死を無駄にしないために

株式会社豊利建設

代表取締役 橋本 嘉紀

<今までの私>

昭和48年に創業を開始した弊社の自慢は、重大災害ゼロ記録でした。

しかし、安全に対しては、私達の顧客でもあるゼネコンの安全教育を重点に、元方任せの社員教育をしていただけでした。それでも、無事故でゼロ記録を伸ばしていました。

その時の私の心の中は、社員を教育したり、指導したりするノウハウがないことや、組織的な原因分析もできないことに気付きながらも、「今までこの方法でうまくいっていたのだから、これからこの方法で良いだろう」と、相変わらずゼネコン任せの安全教育に頼っていました。

<恐れていた事が...>

いつもと変わらない朝、一本の電話が朝8:30に私の携帯電話に入りました。

「社長！Aさんが足場から落ちました！」

私は恐れていたことに直面し、気も動転していたと思います。本人の容体も聞かず「すぐに病院へ連れて行け！」と、電話口で伝えました。

私に電話をくれた職長は、私に「無理です。救急車で搬送します。」と伝えた後、電話を切りました。

しばらくしてから電話が入り、搬送先の病院が分かり直ぐに直行しました。容体は最悪でした。両側の肺が破裂し、大量の輸血をしたにもかかわらず、その後帰らぬ人となりました。

今になり、事故が起きた時の状況の連絡をもらった時のことを振り返ってみると、「まさか自社に限っては」+「なんとかなるだろう」=「今後の仕事の事」と、自分の体裁ばかり考えていたような気がします。

<事の重大さ>

事故現場にどこから聞きつけたか、某テレビ局が中継に来ました。

この事故が全国に報道され(社名は伏せてありました)、施主様やゼネコンに対し多大なご迷惑をお掛けしました。

一番辛かったのは施主様に「死亡事故が起きた所に暮らせるか！全部買い取ってくれ」と言い詰められたことです。

私が、施主ならやっぱり同じことを言うだろうなと思いましたが、私も大切な仲間を失って落ち込んでいる時の一言は、なんと表現しがたいものがありました。

その後、ゼネコンと労働基準監督所に毎日のように呼び付けられ、事故原因の追求と対策について指導を受けました。内容は当たり前のことばかりでしたが、そのあたり前が、あたり前でなかったことに自分の愚かさを感じました。

<Aさんが私に教えてくれたこと>

事故後、社内での安全協議会が続き、監督所に指導を受けたことを参考に、協議会を行ないましたが、何かが足りないことに気づきました。それは社員の自発的発言と指導力です。

自社独自の安全マニュアルもない弊社は、今まで経営指針と経営理念だけに頼り、安全に対しては具体的な内容と対策がなく、押し付けの協議会だったということです。だから、社員からの提案や意見がないまま、毎日むだな時間を費やしてきたと思います。

Aさんの死を無駄にしないよう、私達がしなければいけない一番大切なことは、二度と同じ過ちを起さないことだと思います。

それには、私達の足りないものを補っていくことだと考えました。

(つづく)



会計の成熟度を高めよう その1

公認会計士/ITコーディネータ

寺坂 茂利

今回から3回にわたり、企業会計の成熟度レベルの向上についてお話しします。

まず、企業会計の成熟度レベルとは、自社の会計がどの程度経営に役立つものとなっているかを図るものさしだと考えてください。

企業会計の成熟度レベルには、以下の6つの段階があります。

レベル0: 自社で決算を行わず、顧問税理士等に委託をしている。

レベル1: 年度末のみ、税務申告のための決算を自社で行っている。

レベル2: 月次決算と予算管理を行っている。

レベル3: 月次決算が月初5稼働日までに終了する。自社独自の管理会計を行っている。

レベル4: 管理連結も含めた月次決算が月初5稼働日までに終了する。

レベル5: 管理連結も含めた損益の状況が日次で把握できる。

現在、日本を代表する大企業では、レベル5に到達しているところもあります。しかし、上場企業であっても、レベル3もしくは2という企業もあります。

いわゆる中堅企業においては、レベル2が大半なのではないでしょうか。

企業はその規模が大きくなるにつれ、現在の経営状況を把握するのがだんだん困難になります。したがって、それに合わせて、企業会計の成熟度レベルを向上させて、経営者が自社の経営状況をタイムリーに把握できるようにしなければなりません。

会計は税務申告や金融機関のために行うのではなく、本来は経営者の意志決定を支援するために行うものなのです。

そういう意味では、中堅企業が目指すレベルは、「3」であると思います。

今回は、成熟度レベルを向上させる方法についてお話ししたいと思います。

(つづく)